

Economic Indicators

発表日: 2022 年 10 月 4 日 (火)

消費者物価指数(東京都区部・22 年 9 月)

～全国 CPI コアは9月に+3%か。「値上げの秋」で CPI はさらなる上振れへ～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

(単位: %)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
21	1月	▲ 0.7	▲ 0.7	0.1	0.0	▲ 8.5	▲ 0.5	▲ 0.4	0.2	0.1	▲ 9.0
	2月	▲ 0.5	▲ 0.5	0.1	0.0	▲ 5.8	▲ 0.3	▲ 0.4	0.2	0.1	▲ 5.0
	3月	▲ 0.4	▲ 0.3	0.0	0.0	▲ 0.0	▲ 0.4	▲ 0.3	0.2	0.1	1.6
	4月	▲ 1.1	▲ 0.9	▲ 1.2	▲ 0.9	10.6	▲ 1.2	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.7	11.3
	5月	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 0.9	15.7	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.6	16.6
	6月	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 1.1	▲ 0.9	14.9	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 0.6	15.1
	7月	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 0.8	▲ 0.6	16.6	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.4	17.8
	8月	▲ 0.4	0.0	▲ 0.7	▲ 0.5	14.2	▲ 0.4	0.0	▲ 0.1	▲ 0.1	16.0
	9月	0.2	0.1	▲ 0.8	▲ 0.5	14.1	0.3	0.1	▲ 0.2	▲ 0.1	15.6
	10月	0.1	0.1	▲ 1.2	▲ 0.7	18.3	0.1	0.1	▲ 0.6	▲ 0.4	20.1
	11月	0.6	0.5	▲ 1.2	▲ 0.6	23.6	0.5	0.3	▲ 0.7	▲ 0.4	26.0
	12月	0.8	0.5	▲ 1.3	▲ 0.7	20.7	0.8	0.5	▲ 0.6	▲ 0.3	21.3
22	1月	0.5	0.2	▲ 1.9	▲ 1.1	20.3	0.6	0.2	▲ 1.2	▲ 0.7	20.5
	2月	0.9	0.6	▲ 1.8	▲ 1.0	20.6	1.0	0.5	▲ 1.1	▲ 0.6	19.7
	3月	1.2	0.8	▲ 1.6	▲ 0.7	18.5	1.3	0.8	▲ 1.0	▲ 0.4	17.0
	4月	2.5	2.1	0.1	0.8	15.7	2.4	1.9	0.3	0.8	14.2
	5月	2.5	2.1	0.2	0.8	13.9	2.4	1.9	0.3	0.9	11.9
	6月	2.4	2.2	0.2	1.0	13.3	2.3	2.1	0.4	1.0	11.4
	7月	2.6	2.4	0.4	1.2	10.2	2.5	2.3	0.4	1.2	8.6
	8月	3.0	2.8	0.7	1.6	9.1	2.9	2.6	0.6	1.4	6.6
	9月	-	-	-	-	-	2.8	2.8	0.8	1.7	6.5

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

全国 CPI コアは9月に+3%乗せの可能性あり

本日総務省から発表された 22 年 9 月の東京都区部消費者物価指数(生鮮食品除く)は前年比+2.8%と、前月から上昇率が 0.2%Pt 拡大した(事前の市場予想: +2.8%)。季節調整値で見ても前月比+0.3%と高い伸びが続いており、強い結果と言える。エネルギー価格の伸びが前月からやや縮小した一方、食料品(生鮮除く)の伸びが大きく高まったことが押し上げ要因になった。加えて、エネルギー、食料を除くコアコア部分で原材料高や円安によるコスト増の価格転嫁が進んだことも、上昇率拡大に寄与している。

なお、本日の東京都区部の結果を踏まえると、9月の全国 CPI コアは前年比+3.0%程度と、8月の+2.8%から伸びが高まることが予想される。2.9%になるか3.0%になるかは微妙なところだが、どちらかというと+3.0%の方が可能性は高そうだ。これまで10月に(消費税要因を除けば)91年8月



以来の3%台乗せと予想していたが、1ヶ月前倒しとなる可能性が高まっている。

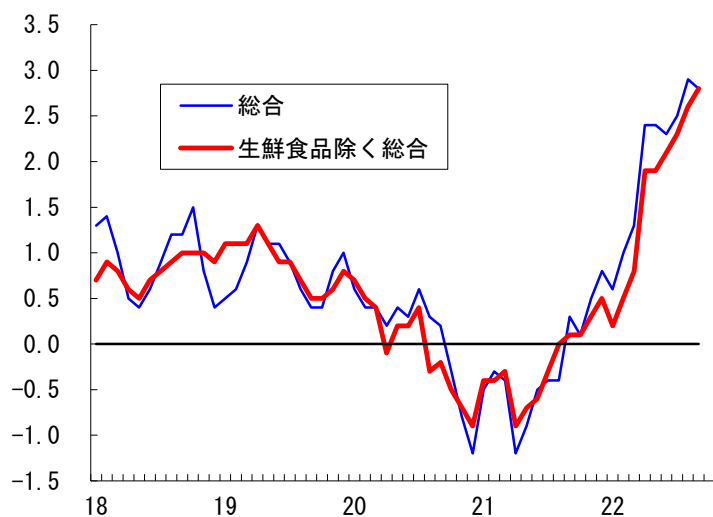
食料品が上振れ。「値上げの秋」で10月はさらなる加速へ

エネルギー価格は前年比+24.2%と、8月の+25.6%から伸び率がやや縮小した（前年比寄与度：8月+1.27%Pt→9月+1.22%Pt）。過去の燃料価格の上昇の影響が遅れて出ていることで電気代は前月比+1.0%とプラスとなっているが、前年同時期も前月比で高い伸びとなっていた裏が出たことで、前年比で見ればプラス寄与が縮小している。

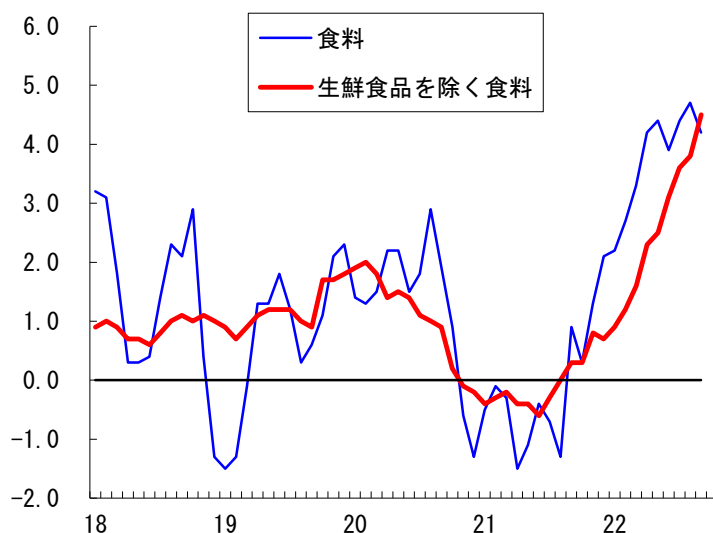
こうしたなか、今月もCPIの押し上げ要因となったのが食料品（生鮮除く）であり、前年比+4.5%と、8月の+3.8%から大きく伸びを高めた（前年比寄与度：8月+0.85%Pt→9月+1.01%Pt）。食料品価格の値上げは落ち着くどころから足元で一段と加速している状況であり、値上げラッシュが収まる気配はない。パンや麺類で二桁の伸びが続いているほか、菓子類などでも伸びが高まっている。また、コスト増の価格転嫁が進んでいる外食についても前年比+3.9%と、8月の+3.7%から伸びを高めた。

食料品（生鮮除く）は、今後も上振れが続く可能性が高い。足元で目立つのが円安を理由とした値上げである。以前は小麦や油といった原材料価格の高騰を理由とした値上げが大半だったが、ここに来て円安によるコスト増を理由とした値上げ表明が増えている。円安による輸入コスト増加の影響はまだ続くことを考えると、食品値上げはまだ収まらないだろう。特に10月については「値上げの秋」と呼ばれるほど食料品の値上げが集中しており、品目数、値上げ幅とも過去に比べてかなり大きくなっている。10月の食料品価格はこれまで以上の加速を見せる可能性が高く、CPIを大きく押し上げることになるだろう。

東京都都区消費者物価指数（前年比、%）



東京都都区消費者物価指数（前年比、%）



食料（酒類を除く）及びエネルギー除く総合（米国型コア）は前年比+0.8%と、前月の+0.6%から伸びが高まった。米国型コアからさらに携帯電話通信料と宿泊料を除いたものを計算しても+1.0%と、前月の+0.8%から上昇率が拡大している。直近のボトムである22年3月の+0.3%と比べて0.7%Ptの改善であり、値上げの動きがエネルギーや食料品以外にも広がっていることが確認できる。

こうした動きの背景にあるのが円安の進展だ。円安により輸入品の価格が全般的に押し上げられた

ことで、エネルギーや食料品以外でも価格転嫁を進める必要性が生じている。足元で特に目立つのが耐久財価格の上昇であり、家電等で値上げの動きが広がっている。輸入比率が高い衣料品についても今月は伸びを高めており、円安によるコスト増を背景にした値上げが散見されるようになってきた。

デフレマインドが染みついた日本では、価格は据え置きが基本だ。自社だけが値上げを行うことで必要以上に注目されたり、他社にシェアを奪われることを恐れ、多少のコスト増であれば企業努力で吸収することがほとんどだ。もっとも、値上げを表明する企業が増えてくれば、他社に追随しての価格引き上げが行いやすくなることも考えられる。今後はエネルギーや食料品以外でも価格転嫁の動きが広がる可能性が高い。

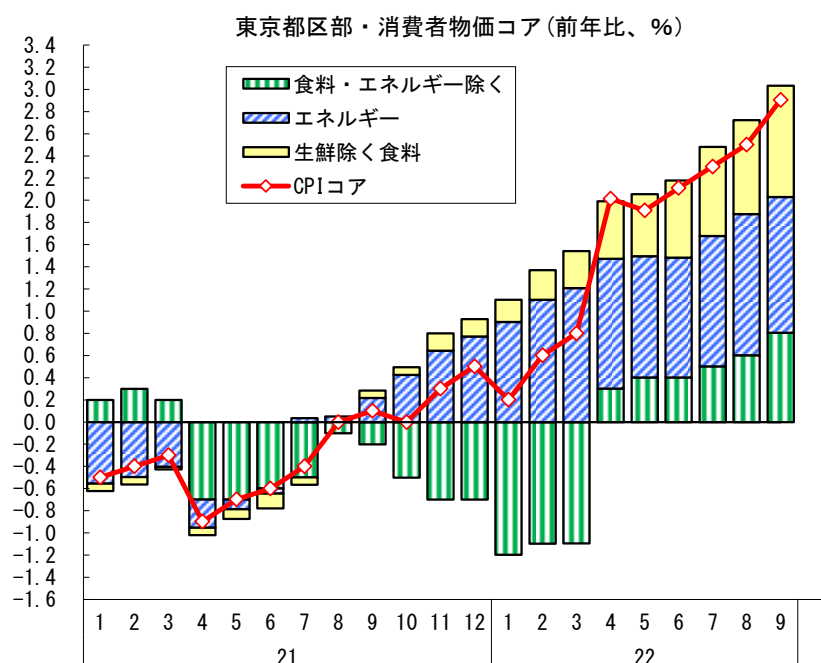
CPI コアは一段の上振れへ

前述のとおり、本日の東京都区部の結果を踏まえると9月の全国CPI コアは前年比+3.0%程度と、8月の+2.8%から伸びが高まることが予想される。これまで10月分での+3%乗せを予想してきたが、9月に前倒しとなる可能性も十分ある。

さらなる上振れが見込まれるのが10月だ。前述のとおり、10月は値上げが集中しており、食料品（生鮮除く）の伸びが大きく高まることが避けられない。エネルギー、食料以外の部分でも価格転嫁の動きが広がることに加えて、携帯通信料要因が追加的に剥落することも押し上げ要因となる。このように、10月のCPIは上振れ要因が目白押しだ。10月11日から開始される「全国旅行支援（※）」がCPIに反映されるかどうかで数字は変わってくるが、仮にCPIに反映されないとすれば、10月の全国CPI コアは+3%台半ばに近付くことも想定される状況だ。

（※）全国旅行支援のCPIへの影響については「「全国旅行支援」と消費者物価指数 ～仮にCPIに反映された場合、0.2%～0.4%Pt 押し下げの可能性～」（6/24 発行）をご参照ください。

<https://www.dlri.co.jp/report/macro/193196.html>



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

